

る。
外海地区は地理的に広域のため、サービス利用に際して移動に不便な状況にあるが、平成26年度には、小規模多機能型居宅介護事業所が1カ所開設予定であるため、外海地区の要介護者のサービス選択の幅が広がると考えている。

ローマ教皇の長崎招請

問 昨年10月、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録に向けた協力とローマ教皇の長崎訪問を要請する知事と市長の文書が、ローマ法王庁に対し届けられ、ローマ教皇からは、招待への感謝の意が示された。また、ローマ法王庁から文化庁長官あてに世界遺産登録を支援する旨、文書で伝えられた。このような中、ローマ教皇を本市に招請するつもりはないか。

答 元カトリック浦上教会主任司祭を初めとするパチカン訪問団がパチカン市国を訪問されるに当たり、ローマ教皇あての親書を預けた。その中で、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録についてご理解とご支援をお願いするとともに、2015年が大浦天主堂における信徒と神父の劇的な再会から150年の記念すべき年に当たることから、ぜひ本市を訪問して

もらうようお願いをした。今後とも県やカトリック長崎大司教区など関係機関とともに2015年のローマ教皇の来崎をお願いしていきたい。



▲大浦天主堂

日本維新の会

市庁舎・MICE施設・公会堂建設等に係る財政の実態

問 市庁舎の建て替えやMICE施設建設など大型プロジェクト事業を行うため、財政的にはどのように対応するのか、また、市庁舎、MICE施設、公会堂に関する見解を伺いたい。

答 本市の財政状況としては、過去に市制100周年記念事業として取り組んだ大型建設事業の償還が一定終了したこと等により、新たに大型事業に取り組むことができる環境は一定整っているものと考えている。

MICE施設は、観光以外の新たな交流人口の獲得により外貨を稼ぐために不可欠な施設である。検討中の場所

では、他都市と差別化できる駅直結の施設整備が可能であり、その機会は、今しかないと考えている。

また同時に、耐震性の不足等の課題がある市庁舎の建て替えは、市民の安心安全の確保という観点等からも取り組みを急ぐべき重要な課題である。あわせて、芸術文化活動の発表・鑑賞の拠点機能の確保についても、検討を進めていかなければならないと考えている。



▲新市庁舎の建設予定地である公会堂

新市庁舎建設基本計画に対するパブリックコメントの役割とその使命

問 新市庁舎建設基本計画に対するパブリックコメントの役割とその使命をどのように受け止めているか伺いたい。

答 パブリックコメント制度は、本市の主要な計画等を立案する過程において、素案の段階で広く市民に情報を提供し、意見・提案をいただき、計画等の決定を行う上で参考にさせていただくとともに、意見等に対する市の考え

も公表するものである。パブリックコメントの応募件数は、85人、134件

で、いただいた意見のうち、「現庁舎の跡地の件をもっとはつきり盛り込んでほしい」ことや「証明書の待ち時間を楽しむために、季節に合わせ臨時の直売所の設置」など9件は、意見を参考に基本計画案に反映している。また、その結果は、ホームページで公表するとともに、支所、行政センター等へ備え付けている。

新市庁舎建設の推進に当たっては、今後とも、本市の方針や考え方、具体的な取り組み状況など機会を捉えて市民の皆様への説明に努めていきたい。

長崎市民会議

オバマ大統領の歓迎姿勢

問 オバマ大統領の来崎が実現した際の心構えとして、市民に対しどのような心構えとして、市民に対しどのようにあつてほしいと考えているのか、また、市長の歓迎姿勢について伺いたい。

答 これまで大統領就任直後から被爆地訪問を要請しており、平和宣言でもオバマ大統領を初めとして各国の首脳の被爆地訪問を呼びかけてきた。オバマ大統領の訪問は、かつて原子爆弾により大きな被害を受けた被爆地から、